

| | | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------|-----|--------------|----------|--|----------|----|---------------------------|----|
| 授業科目(ナンバリング) | | 英語科教育法Ⅲ (QB306) | | 担当教員 担当形態 | | 田中 誠 単独 | | | | |
| 教員免許状取得 のための選択の別 | 英語(中・高):必修 | | 単位数 | 2単位 | 開講 年次 | 3年 | 展開 方法 | 講義 | 開設 時期 | 前期 |
| 科 目 | 教職に関する科目(教育課程及び指導法に関する科目) | | | | | | | | | |
| 各科目に含める ことが必要な事項 | 各教科の指導法 | | | | | | | | | |
| 授業のねらい | | | | | | | | | アクティブ ラーニング の 類 型 | |
| 高等学校の学習指導要領及び教科書について深く理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解し、中学校の学習指導要領との内容の違いを理解する。小学校の外国語活動・外国語科に関しても、学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。また、高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解し、学習指導案の作成方法を身に付ける。さらに、学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができるようになる。難易度の高い教材や効果的な ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのチーム・ティーチングの方法についても理解する。 | | | | | | | | | ①⑤ | |
| ホスピタリティを 構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | | 評価手段・ 方法 | | | 評価 比率 | |
| 専門力 | <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領並びに学習到達目標に基づく授業の組立てについて理解し、学習指導案を作成することができる。 小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教科書等の教材、並びに小・中・高等学校を通した英語教育の在り方の基本について理解している。 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。 ICT を英語の授業指導に効果的に活用することができる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業時の指導案 模擬授業＋英語運用能力 レポート | | | 10% 20% 10% | |
| 情報収集、 分析力 | <ul style="list-style-type: none"> 中学校・高等学校の外国語(英語)の教科書について深く理解している。 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。 毎回の授業のポイントを簡潔にまとめることができる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業＋英語運用能力 毎回の課題 | | | 10% 10% | |
| コミュニケーション力 | <ul style="list-style-type: none"> 日本語の使用を最低限にして、英語で英語の授業をすることができる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業＋英語運用能力 | | | 20% | |
| 協働・課題解決力 | <ul style="list-style-type: none"> ALT 等とのチーム・ティーチングについて深く理解し、授業指導に生かすことができる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 受講者の発表 | | | 10% | |
| 多様性理解力 | <ul style="list-style-type: none"> 異文化理解に関する指導について深く理解し、授業指導に生かすことができる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 模擬授業 | | | 10% | |
| 出 席 | | | | | | 受験要件 | | | | |
| 合 計 | | | | | | 100% | | | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | | | | |
| 毎回の課題は、授業後に manaba(ポートフォリオ)に授業のまとめを提出。レポートは学期末に「授業に活かす教材研究の方法」を提出。レポートに関しては、フィードバックを manaba 上で行う。また、授業中の発言内容や授業への取り組みも評価の対象とする。「模擬授業＋英語運用能力」と記載しているのは、英語を使用して授業を行ってもらいたいからである。従って、この授業終了までに英検 2 級レベルの英語運用能力のない学生は、再履修となるので注意すること。 | | | | | | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | | | | | | | | | | |
| 講義を中心とするが、学習指導案の作成・討論など演習形式の授業内容も取り入れる。また、ビデオ教材なども取り入れ、具体的な指導方法を分かりやすく学んでいく。指導内容のレベルが上がるのでの教材研究の方法を丁寧に指導する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。 | | | | | | | | | | |
| 教 科 書 ・ 参 考 書 | | | | | | | | | | |
| 教科書:『アクティブラーニングを位置づけた高校英語の授業プラン』 管正隆・松下信之 著 (明治図書) New Horizon 2 (中学2年生用の英語教科書)(東京書籍) Crown English Communication II (高校2年生用英語教科書)(三省堂) 「学習指導要領」は文部科学省のHPを使用。 参考書:文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 外国語編』 | | | | | | | | | | |

| 文部科学省『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 『はじめてのオールイングリッシュ授業』又野陽子 著 (明治図書) 指定図書:『教室英語ハンドブック』 高梨 庸雄 他 (研究社) | | | |
|---|---------------------------------|--|---|
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | |
| 授業だけでは、教師に必要な知識や技能を全て習得することは難しいので、授業中に指示する参考図書などを積極的に読んでくれることを期待する。「教えることは、学ぶことである」ということを理解して欲しい。 | | | |
| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
| 1 | オリエンテーション | 本講義の意義を理解する。テキストの内容を把握し、授業の進め方、授業外学修の方法などについての講義を受ける。『学習指導要領』の復習。 | 『学習指導要領』を再度熟読する。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 2 | 学習指導要領 小・中・高の連携 | 学習指導要領に基づき、小学校の外国語活動・外国語科について学ぶ。小・中・高等学校の連携の在り方に理解する。 | 小・中・高の連携を調べる。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 3 | 中学校・高校の教科書の理解、授業計画(上級編) | 中学校・高校の教科書の内容を深く理解し、学習指導要領の3つの資質・能力を理解した上で、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について学び、それらに基づく授業の組み立て方を学ぶ(上級編)。 | 学習到達目標、単元計画を調べる。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 4 | アクティブラーニングを活用した授業の組み立て 異文化理解 | アクティブラーニングを活用した英語の授業の組み立て方を学ぶ。また、異文化理解に関する内容をどのように授業に組み込んでいくのかについても学ぶ。教室英語を学ぶ。 | 授業の組み立て方を調べる。講義の振り返りをmanabaにまとめる。 |
| 5 | 指導案の書き方(上級編) | 学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解した上で、日本語と英語での指導案の書き方を学ぶ。(上級編) 教室英語を学ぶ。 | 指導案について調べてくる。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 6 | 第二言語習得論 | 日本のように、教室外では英語が使用されていない環境の中での英語習得法を考える。第二言語習得論。教室英語を学ぶ。 | 第二言語習得論を調べる。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 7 | 英語音声指導 ICTを活用した指導(1) | 英語音声学の基礎知識を音声指導に活かす。難しい発音の指導方法。ICTを活用した音声指導について。教室英語を学ぶ。 | 音声指導法を調べる。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 8 | 英語による英語の授業 ICTを活用した指導(2) | 英問英答のための基礎知識。生徒同士の活動へとつなげる方法。意味理解が重要か内容理解が重要かの問題を考える。英語による授業支援のためのICTの活用を考える。教室英語を学ぶ。 | 英語での授業方法を調べる。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 9 | ALTとのチーム・ティーチング(上級編) | ALTとのチーム・ティーチングについて学ぶ(上級編)。教室英語を学ぶ。 | 英語での授業方法を調べる。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 10 | 授業診断・評価 | 自分の授業の授業診断・評価。学習指導要領に基づき、単なる英語力だけではなく、3つの資質・能力の伸びについても診断・評価する方法を学ぶ。(上級編) | 配布資料を熟読する。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 11 | 教材研究 | 教材研究の具体的な方法を学ぶ。また、その教材研究を活かした指導計画、板書計画について学ぶ。(上級編) 教室英語を学ぶ。 | 担当箇所を熟読する。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 12 | 実践的な模擬授業 (高校2年1学期) | 高2の1学期の内容を題材に模擬授業をし、反省会でのディスカッションを通して、問題点を探り、理解を深める。模擬授業の際には、学習指導案、板書計画なども同時に指導を受ける。 | 高2の1学期の内容の模擬授業の準備をする。生徒役は該当箇所の予習。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 13 | 実践的な模擬授業 (高校2年2学期) | 高2の2学期の内容を題材に模擬授業をし、反省会でのディスカッションを通して、問題点を探り、理解を深める。模擬授業の際には、学習指導案、板書計画なども同時に指導を受ける。 | 高2の2学期の内容の模擬授業の準備をする。生徒役は該当箇所の予習。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 14 | 実践的な模擬授業 (中学2年2学期) | 中2の2学期の内容を題材に模擬授業をし、反省会でのディスカッションを通して、問題点を探り、理解を深める。模擬授業の際には、学習指導案、板書計画なども同時に指導を受ける。 | 中2の2学期の内容の模擬授業の準備をする。生徒役は該当箇所の予習。講義の振り返りをmanabaに。 |
| 15 | 教材研究、まとめ | 中学校・高校の教科書を使用し、教材研究の具体的な方法を学ぶ。全体のまとめ。 | 担当箇所を読み込む。講義の振り返りをmanabaに。 |

